

重点施策9 地域ぐるみで取り組む青少年補導の充実強化

【施策方針】

情報化・国際化・少子化、家庭教育の弱体化など、激動する社会の変化に伴い、人と人との連帯意識の希薄化、価値観の多様化、子供たちの体験不足などが年々深刻化している。

こうした青少年を取り巻く環境の変化が、青少年の初発型非行を誘発する大きな要因ともなっている。

こうした状況のもと、次世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長することを願い、青少年の健全育成と非行防止のために、関係機関と連携し、地道な活動を展開していく。その際、青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を一層発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして、補導活動を行う。

また、補導活動の一層の充実及び青少年をめぐる環境点検と有害環境の浄化に努めるとともに、特にネット犯罪防止に向けての補導員自身の研鑽にも努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 急増するネット犯罪への研修を深め、補導活動・相談活動の充実に努める。
- ② 環境浄化活動・防犯相談所活動の充実に努める。
- ③ 補導員研修会等を開催し、補導員相互の理解と一層の研鑽に努める。

(2) 施策・事業の実施状況

① 補導活動の充実

社会の変化に対応し、スマホやパソコンのネット犯罪、カラオケ、ゲームセンター、喫煙、薬物乱用等に留意し実態把握に努めるとともに、不安定な心理の青少年に「愛の声かけ」を中心に、適切な助言アドバイスをを行いながら支援・援助活動を行った。

市内12小学校区に12支部を擁する補導員会では、市内小中高等学校教職員補導員も含め、176名の会員が地区補導・中央補導・地区別特別補導（※輪抜けや夜市、花火大会など）など、140回の補導活動に延べ646人の補導員が参加し、地区の実態に応じた健全育成活動、危険箇所の点検等を展開した。

② 環境浄化活動・相談活動の充実

青少年のためのより良い環境づくり、地域ぐるみの点検、実態調査などの活動を促進し、不良・有害環境の整備、浄化を図った。

「学校警察連絡協議会（学警連）」と防犯協会等が連携し、市内全域に29の防犯相談所を設置し、悩みをかかえる子供たちの発見と支援に取り組む相談活動を展開しており、青少年センターでも、来所または電話による相談に応じている。

令和6年度は、来所相談2件と電話相談1件であった。必要な助言や指導援助を行い問

題解決に当たった。今後も関係機関との連携を密にして、積極的に対応するよう心がけていきたい。

③ 補導員研修会の開催

補導員の研修・交流の場として、市補導員研修会や南予ブロック補導員研修大会（内子町）、先進地視察研修（高松市少年育成センター）など各種研修を実施した。

年度当初の定期総会は5年ぶりに参集開催となった。役員会及び地区長会の開催（年6回）や各地区特別補導（夏季・冬季）、中央補導の実施により、補導員会相互及びセンターとの連携・情報共有に努め、補導員個々の青少年の健全育成・非行防止の意識向上に取り組むことができた。また、補導員会ソフトバレーボール大会を5年ぶりに開催し、補導員間の親睦を深めることができた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 本市は、他市町と比較して児童生徒による問題行動の発生件数が極めて少ない。問題行動を未然に防止するため、日頃から児童生徒理解を深め、教職員と児童生徒との信頼関係を築くための「教育相談」を積極的に実施し、きめ細かい対応や指導につなげている。また、教育委員会指導の下、管理職や生徒指導主事を中心に、学校全体で迅速かつ適切な対応ができる指導体制づくりを進めるとともに、すべての教育活動において日常的に規範意識を育む活動を行っている。また、適切な助言を行いながら熱心に支援活動に取り組んでいただいている青少年センターを拠点とした補導員会の活動も大きな支えとなっている。
- 青少年の健全育成のため、学校警察連絡協議会と補導員会・防犯協会・警察等が良好に連携しながら、今後とも補導や相談等の活動、さらに急増するネット犯罪への対応等に取り組む、より良い環境づくりに努めていただきたい。あわせて、八幡浜市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成並びに非行防止活動に補導員の方々が取り組んでいけるよう、今後も、青少年センターの「情報収集センター」としての機能の充実に力を注いでいただきたい。
- 青少年の健全育成上の懸案事項の一つに、子供を取り巻くインターネット（SNS）トラブルが挙げられる。新たな機器やサービスが急速に浸透し、インターネット利用環境が大きく変化する中で、SNSがきっかけで犯罪へ加担させられるケースや、逆に被害者となるケースが増えてきている。今後も効果的な会合や研修会を開催し、従来通りの補導員会等による見せる補導と合わせて、児童生徒や保護者を対象とした情報モラル教育や地域や関係機関への啓発活動の充実が重要であるとする。
- 県下一斉に実施されている「児童生徒をまもり育てる日」には、各学校において、登下校時に挨拶運動や見守り活動を行っており、教職員や保護者だけでなく、地元企業や警察関係者、教職員OB等が参加し、これからの八幡浜市を担う子供たちが健やかにのびのびと育つよう挨拶を交わしながら温かく見守っている。年に3回の取組ではあるが、啓発活動としての効果は大きい。

- 市内小・中学校の保護者、愛護班、公民館等の協力により、各地域で組織されている子ども見守り隊や補導委員等による児童生徒の見守り、挨拶等の声掛け、登下校時の防犯パトロール、通学路の危険箇所の点検等を実施している。花火大会や輪抜けなど地域行事の際には、地区補導、中央補導、地区別特別補導など大勢の補導員に参加いただいております、大変ありがたい。

【自己評価】

- 青少年センターが「情報収集・発信センター」としての機能を発揮し、学校・警察・関係団体と情報交換を緊密にして補導活動を行った。また、補導員の方々が市青少年補導員会活動方針に基づき、奉仕の精神をベースにした青少年の健全育成や非行防止活動にしっかり取り組むことができた。毎年度7月初旬に、青少年センター運営審議会を開催し本市における青少年の現状、健全育成・非行防止のための具体的な活動について報告しているので、引き続き、審議会を構成する団体に向けた情報提供に努めたい。
- 補導員会研修部を中心に、先進地視察など補導員の研修・交流の場を企画した。先進地視察研修では、高松市少年育成センターを訪問して、SNS等の相談窓口開設の実態や香川大学防犯パトロール隊と連携した補導活動の様子等を伺い、有意義な研修の場となった。次年度以降、引き続き学校・防犯協会・警察生活安全課などとの連携を一層密にしながら情報を共有し、青少年のためのより良い環境づくりと補導員の更なる資質向上に取り組む。特に、補導員のインターネット(SNS)に起因するトラブル等に関する研修会等への参加を促し、自己研鑽に努めたい。
- 令和6年度は、一般補導員及び教職員補導員173名が補導活動に尽力している。夜間補導では子供たちに出会うこと自体が少ないが、不良行為少年も若干増えつつある。今後も青少年の健全育成・非行防止という原点を大切にし、地道な活動の継続・発展を目指していきたい。また、毎月開催している学校警察連絡協議会での情報共有に努め、青少年の健全育成に向けて早期対応が図れるように今後も努めていきたい。
- 青少年を取り巻くインターネット利用環境が一層多様化する中で、SNSに起因する事犯の被害児童数は近年増加傾向にあり、子供の犯罪被害は深刻な状況にある。一方で、悩みを抱える子供たちの発見と支援に取り組む相談活動を展開していく中、問題の深刻化を未然に防ぐ観点から、子供たちにとって身近なSNSを活用した相談体制の在り方について、今後も学校とも情報共有をしながら、当市の実情を踏まえて検討していきたい。